

廃線から20年 碓氷峠

KATO
PRECISION RAILROAD MODELS

2017年 7月

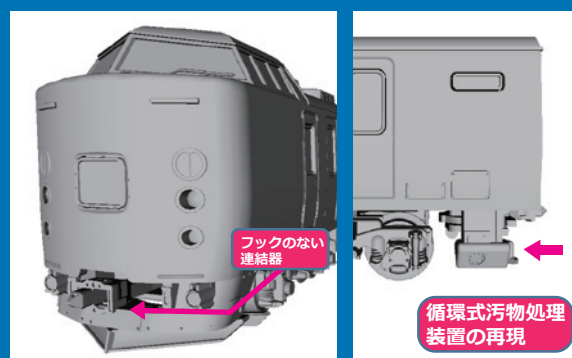
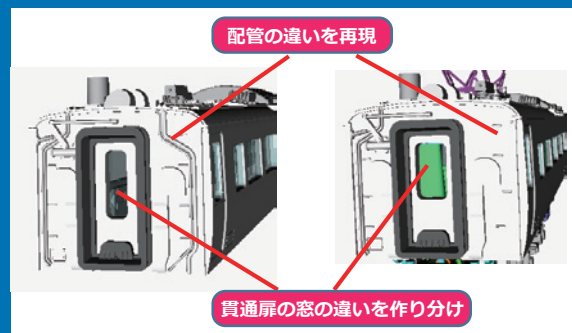
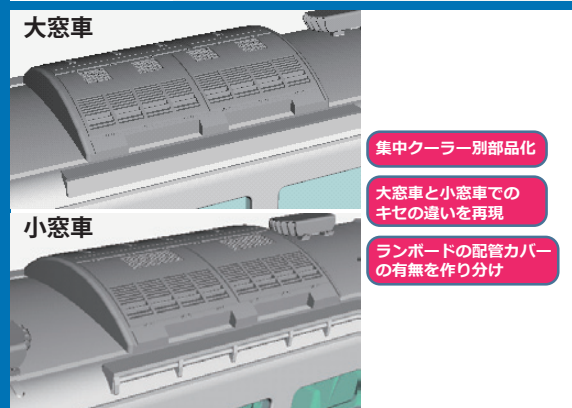
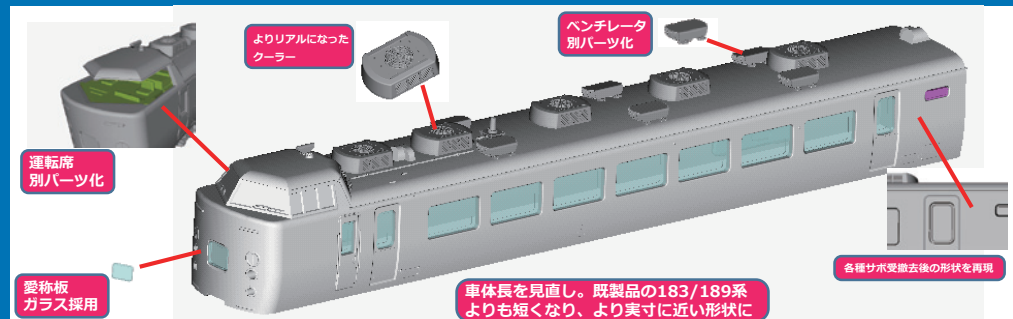
今月の
イチオシ
鉄道模型

1997年、
104年の峠越えの
歴史に幕を閉じる

長らくファンの間で親しまれていた機関車による「横カル」の峠越えが、新幹線にたすきを渡してから二十年の月日が経った。横川〜軽井沢間の使われなくなったレールには、かつての賑わいのほとぼりが、今もまだ冷めぬまま残っている。その雄姿の残像は、当時を知らない者が見ても面影を感じるほど、はつきりとそこにある。

距離にして僅か十一キロ、たった一駅の間を走るために機関車に満載された特殊装備は、その峠の険しさを物語っていた。GG7₁₀₀という急勾配に最末期まで挑み続けた碓氷峠専用機、「EF63」、そして迫力の3重連運転の共演車「EF62」。彼らが長大な編成を押し上げていく姿は、記憶と、記録と、模型に残されている。

廃線二十年という節目に、今再び最も熱かった最後の碓氷峠の余韻を、Nゲージで楽しんでみては如何だろうか。



KATOの189系が
フルリニューアル

2017年10月発売予定

189系
＜グレードアップあさま＞

10-1434 5両基本セット 予価 ¥15,900+税

10-1435 6両増結セット 予価 ¥13,900+税

74130-9 サロ189＜グレードアップあさま＞増結車【特別企画品】

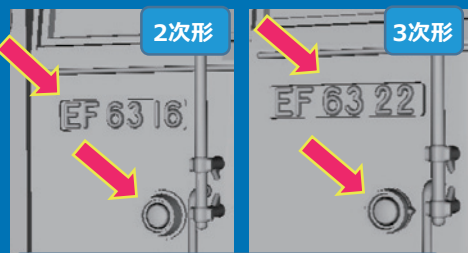
予価 ¥2,000+税

今回製品化する189系（グレードアップあさま）は、パンタグラフを減らす施行を行った平成7～9年（1995～1997）頃の、長野総合車両所所属のN206編成がプロトタイプ。側面のサボ受を撤去、モハ188の第2パンタを撤去し、形式表記が車体中央のみとなった姿の車両。既製品よりも細部までディテールを追求し、また塗色も全て見直し、より実車に近い色味に仕上がる予定だ。

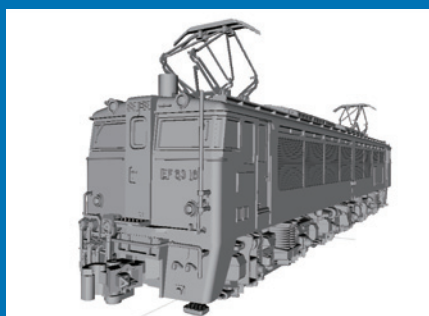
碓氷峠を駆け上った車両として、勿論EF63との併結ができるよう、クハ189508の先頭部には密連形カプラー#2（フックなし）を装備。フックのない形状の連結器が、リアリティさをぐっと引き出す。横川側に重連のEF63を繋ぎ、急坂をゆっくりと登っていく、あるいは下っていく姿が再現できる。特別企画品として、多客時に見られた「増6号車」のサロ189も用意。床下にMGが装備してないのが最大の特徴で、基本セットとのサロ189とは姿が異なる。

また碓氷峠廃止後、中央本線の「あずさ」や長野地区の「ホームライナー」として活躍した姿も再現できるよう、トレインマークを用意。お好みの姿で189系を楽しめるようになっていく。

初のJR仕様 EF63 2次形・3次形



ナンバープレート、ライト形状の違いを作り分け

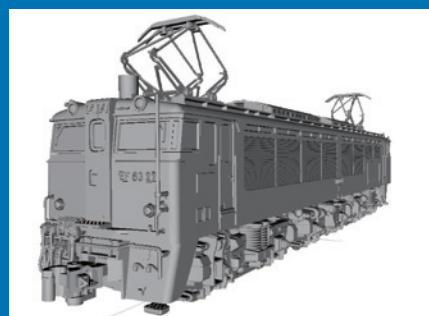


2017年10月発売予定

EF63 2次形 JR仕様

3085-2

予価 ¥7,500+ 税

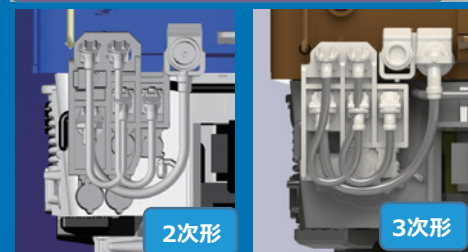


2017年9月発売予定

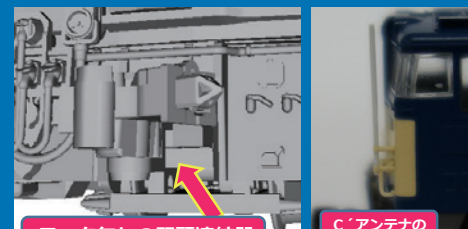
EF63 3次形 JR仕様

3085-3

予価 ¥7,500+ 税

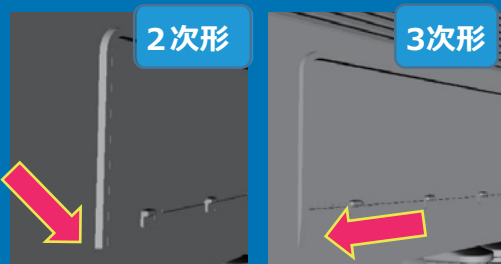


異なるジャンパ栓の配置、枠の形状の違いを再現。
また、実車に見られるケーブルの「たわみ」の違いを再現。



フック無しの双頭連結器

C'アンテナの色分けを再現



非常用電源のハッチの端部の形状が異なる水切りを再現。

C'無線アンテナが装備されているのが特徴的なEF63のJR仕様。また、KATOでは初となる3次形車両の登場。外バメ式のテールライトや、ナンバープレート、ジャンパ栓の形状など2次形との差異を作り分け。2次形と3次形の重連で違いを楽しめる。
十一月には末期にいた茶色のEF63もラインナップ。

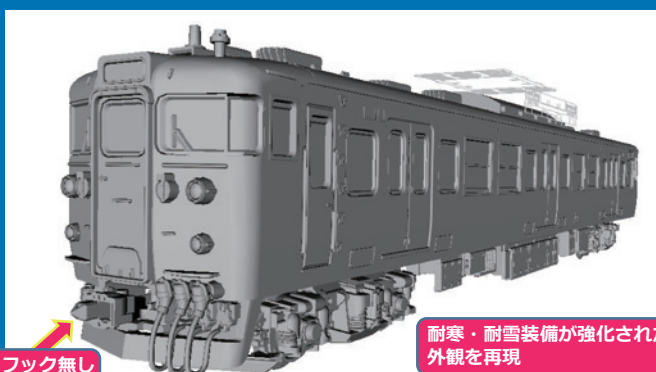
EF63 と合わせて
楽しめる

2017年8月発売予定(再生産)

489系 白山色

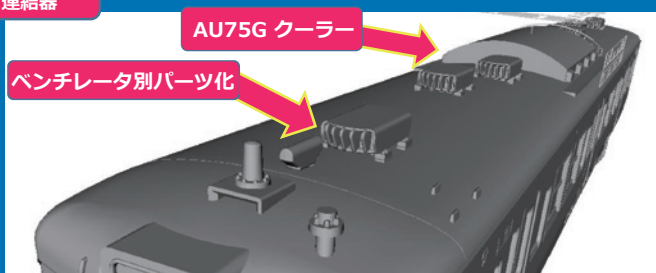
10-1202 5両基本セット 予価 ¥16,500+ 税

10-1203 4両増結セット 予価 ¥8,400+ 税



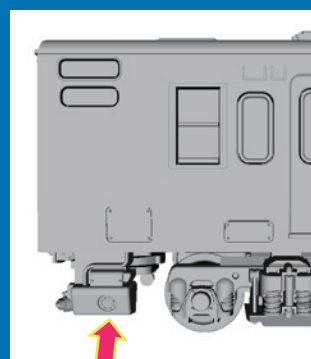
フック無し連結器

耐寒・耐雪装備が強化された外観を再現

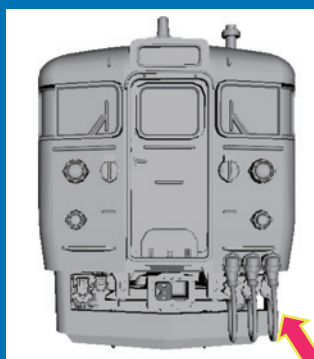


AU75G クーラー

ベンチレータ別パーツ化



循環式汚物処理装置再現



ジャンパ栓新規パーツ

2017年9月発売予定

**115系 1000番台
長野色**

10-1428 3両基本セット 予価 ¥11,000+ 税

10-1429 3両増結セット 予価 ¥7,600+ 税



115系1000番台 もフルリニューアル

115系1000番台も189系と同様に今回フルリニューアルを行う。JR時代の「長野色」と呼ばれる爽やかな車体の塗色が大きな特徴。シールドビーム・ユニット窓・冷房装置搭載・シートピッチ拡大に伴う一部窓配置の変更。雪切り室の設置等の耐寒耐雪装備の充実など、多くの機器類がアップグレードされている。
模型では屋根上機器類のディテールの充実をはじめ、車端部トイレ下の循環式汚物処理装置、フック無しの連結器、この車両で新規に用意するジャンパ栓パーツ等、ディテールをより追求したものになっている。
3連・6連でEF63と共に碓氷峠に挑む姿を楽しめる。